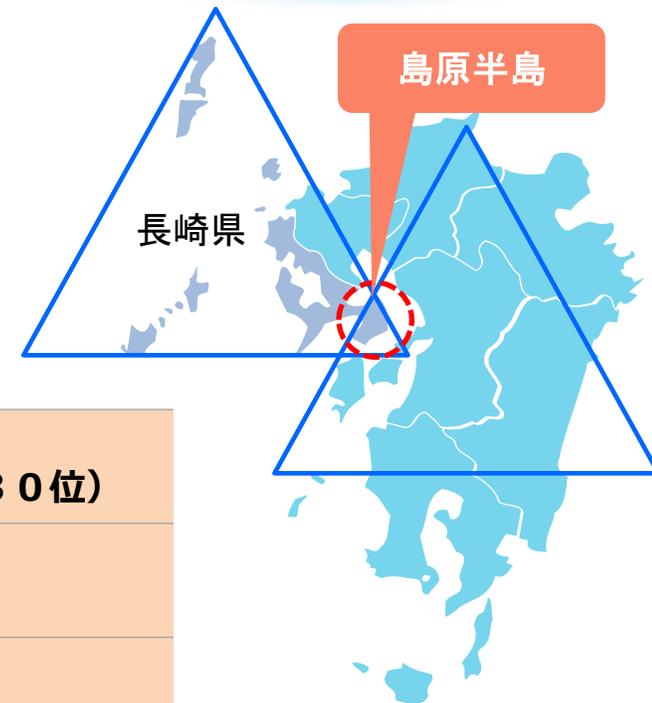


長崎県の位置・特徴について

- 長崎県は日本の最西端、九州の西北部に位置しています。
- 成長著しい中国沿海部の大都市や、韓国まで片道1,000km以内です。



長崎県の県域は
ほぼ九州本土と同じ



人口	約1,312千人 (R2年国勢調査、全国30位)
面積	4,132 km ²
有人島の数	51島 (日本最多)

■ 長崎県雲仙市の概況

☆長崎県の南東部、島原半島の北西部

雲仙普賢岳を取り巻くように位置

☆H17年10月に7町合併

☆人口 42,122人 (R4.2末現在)

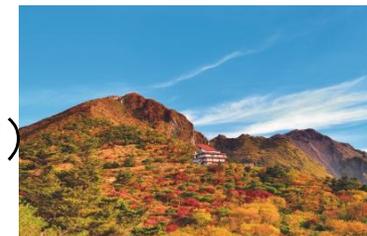
☆面積 241.31²m

☆農業産出額 279.2億円
(長崎県内1位)



■ 観光について

☆雲仙国立公園 (1934年 日本初の国立公園に指定)
雲仙天草国立公園 (1956年 天草地区編入)



☆島原半島ジオパーク (2008年 日本ジオパーク認定)
島原半島ユネスコ世界ジオパーク (2009年 日本初の世界認定)
第5回ジオパーク国際ユネスコ会議 (2012年 島原半島で開催)

☆平成新山 (日本で最も新しい山)

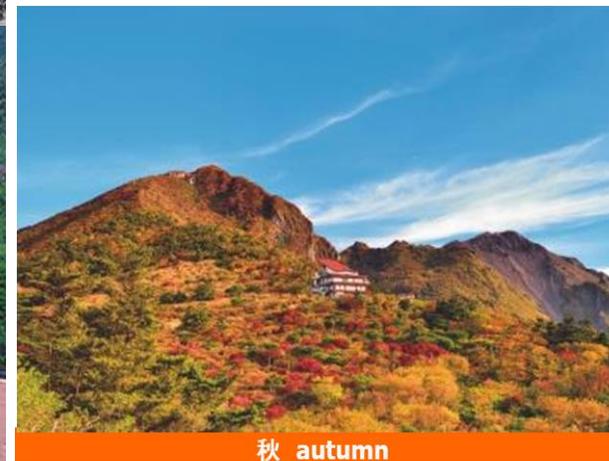
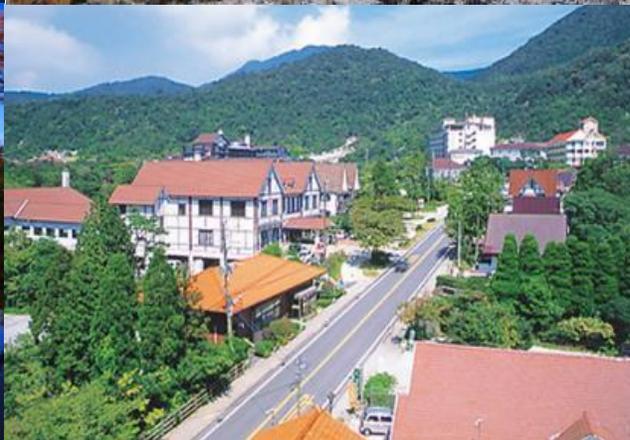
☆雲仙ゴルフ場 (1913年 日本初のパブリックコース)

☆ほっとふっと105 (日本一長い105mの足湯)

☆小浜温泉の熱量 (日本一)
※源泉温度105℃×1日湧出量15,000トン=熱量



■ 国立公園「雲仙」の四季



魅力

- 長崎県一の農業生産高
- 世界でも稀な食材の生産集積地（オーガニック、伝統野菜）
- 普賢岳山頂1400m～海0mまでが一つの自治体に
- 山頂域は日本初の国立公園
- 周囲は性格の違う2つの海（遠浅の有明海、急に深い橘湾）
- 火山の恵みでもたらされた、温泉街や肥沃な農業地帯
- 自然と人が共に作り上げてきた景観や暮らしや信仰がある

課題

- 小中学校の廃校もあり、このまま行くと10年後には、雲仙市の人口は7100人減、消費額95億円のロス。
- 観光と他産業の連携が脆弱で、体験プログラムやアクティビティのニーズにも応えられていない。
- 地元プレーヤーの不足・高齢化、連携するパートナー不足、地域のノウハウ不足。
- 加えて、新型コロナウイルス感染症の影響で、市の主要産業である観光業は大きな岐路に立っている。

雲仙市側

2大産業の農業と観光等すばらしい魅力があるのに、プレーヤー不足、ノウハウ不足で、生かし切れていない



都市側

個人：健康・安心安全、生き甲斐、自分らしい生き方・働き方へのニーズの高まり
企業：三密・通勤を避けリモートワークの推奨、高額な事務所維持経費の削減



**地方と都市の交流によるオープンイノベーションで地域課題解決！
ソリューションの創出！相互に学び、高め合う場所づくり！**

目指すべき将来像：地域内外の人の気持ちの良い交流・交友関係づくり！

雲仙市をチャレンジできる場所に！そして、地域も元気に！
住む人も、働く人も、関わる人も、訪れる人もHAPPYに！

（雲仙ファンづくりから、移住定住・多拠点居住なども含めた関係交流人口の増加へ）

オープンイノベーションのプラットフォーム構築が必要！！

設立目的

- 【雲仙側】オープンイノベーションにより、**地域課題を解決**を目指す。
- 【都市側】雲仙の地域課題を事例に、アイデアの種を生み出したり、ソリューションに磨きをかけ、**ビジネスの成長**を目指す。
- 【共通】これらを通して、関わる**人材の育成**や**企業の価値向上**を目指す。

なぜ雲仙で

- ▶雲仙市観光戦略において、**地域の課題が洗い出され**、その**解決に向けたワーキング**が活動し、**各種プロジェクトが推進**されている。
- ▶地域に、**関わる熱い人々**がいる。
- ▶長崎におけるオープンイノベーションのプラットフォーム構築の機運の高まり。

雲仙側のニーズ

- 課題を解決したい…
- 問題意識はあるが、何が課題かわからない…
- どこに相談してよいかわからない…
- 課題解決のための新たな考え方やノウハウを学びたい…
- ビジネスベースに持っていきたい… 等々

都市側のニーズ(企業、組織、学生)

- 地域のリアルな課題にふれたい… (その中でも、本気の地域と関わりたい)
- そこで、地域と共に、ソリューションの種を、ビジネスに昇華させたい…
- その過程で、地域課題のような複雑系の課題に対処できる人材を育成したい…
- それが、地域貢献にもなれば… 等々

～魅力的な課題がここにはある～

雲仙大学

(バーチャル大学)

雲仙側に期待される効果

- 普段出会えない人や考え方・ノウハウに出会える！
- 地域課題の解決が図れる。
- アイデアが、ビジネスになる。
- 人が育つ。雇用が生まれる。
- 産業が活性化し、地域の持続可能性が高まる。
- 関わる人が増え、観光地としての幅が広がる。

雲仙での地域課題解決に参加することにより、雲仙側・都市側の両方の関わる人や、企業のレベルアップを目指す仮想大学

地方と都市の交流による
オープンイノベーションでの
Win-Winの地域課題解決型
ソリューション創出実践大学

都市側に期待される効果

- 普段出会えない地域の人や課題に出会える！
- ビジネスの種を見出したり、ソリューションの磨き上げ、ビジネスモデルの構築につながる。
- 生み出されたソリューションを、他地域に横展開できる！
- 地域課題のような複雑系の課題に対処できる人や企業になる！
- 自分事に置き換えて、想像できるようになる！

スケジュール

令和2年度

- ① 参加者に、雲仙側が課題（魅力を生かせていない）と考えていることを伝える
- ② 参加者とともに、各課題の現場と、それを何とかしようとしている熱い人たちに会いに行く
- ③ 今後、様々な人に、「参加したい」「関わりたい」と、思ってもらえるように、課題（問い）をブラッシュアップする
- ④ その課題を、教室・ゼミと見立て、雲仙大学のカリキュラムとする

令和3年度

- ① 雲仙大学の開校
- ② 課題解決に向けた取り組みを行い、関わる人がレベルアップしていく
- ③ それに魅せられて、関係する人が増えていく

令和4年度以降

- ① 地域課題の解決も図れ、好循環が起こっていく
- ② 島原半島内でも、関わる人（課題を持ち込む人）が増えていく
- ③ 長崎におけるオープンイノベーションのプラットフォームの一翼を担う

- 地域の人が、課題を持って参加したくなる場に！
- それら課題を、地域内外の交流で、ブラッシュアップする場に！
- それら課題を解決するためのソリューションを生み出し、磨きをかけ、人が育つ場に！
- 地域の高校生などにも参加してもらえるような場に！
- 魅力的な課題設定（問いの立て方）自体も、学ぶコンテンツになる！

昨年度（R3年度）の東大FSの取り組みの様子

【参加者の声】

- ☆雲仙市が抱える課題に直接触れることで、与えられたテーマなどが明確になり、「自分事」として捉えられるようになった。
- ☆雲仙には豊かな自然があり、情熱をもつ人達がいることを実感した。
- ☆温泉が一番有名ではあるが、仁田峠の紅葉や小浜温泉の夕焼けは美しく、多くの人に愛され楽しまれている理由がわかった。ヒアリングでは、10名程度から話を伺ったが、どの方もそれぞれの形で地域に貢献しようとしていて、刺激的だった。
- ☆これからも雲仙市の「第二市民」として携わっていきたい。

【R3年度のテーマ】

仮想大学『雲仙大学』について、
都会の学生や企業が積極的に関わっていた
だけの仕組み・方法やきっかけづくりについ
てご提案いただきたい♪



R4年度みなさんに取り組んでいただきたいこと

☆テーマ☆

地方と都市の交流によるオープンイノベーションの場、
仮想大学『雲仙大学』で雲仙市の課題解決と相互のレベル
アップを目指す♪ ※R3の提案を参考に実践・ブラッシュアップ！

スケジュール(案)

4月

オリエンテーション

5月～7月

オンライン会議等で、雲仙市の課題感や、**前回の学生の活動・提案等を把握**
周辺情報の事前学習

8月～9月

雲仙市での**現地活動**で現場の課題や解決して欲しい事業所等を把握

9月～11月

東京で都市側の大学や企業等にヒアリング
課題解決に向け、解決可能な人や企業の発掘・選定及びマッチングを模索

11月～2月

現地またはオンライン会議等で、地域の人と都市部の人とのマッチングの場の設定
課題解決に向けた意見交換及び解決に向けた取組みの実施

2月～3月

現地報告会にて、マッチングから課題解決に至る過程等の事例のまとめ
それらを踏まえ、ブラッシュアップした雲仙大学の仕組みづくりを提案

『全員集合！雲仙ポータル』

<https://www.unzen-portal.jp/>

雲仙の「今」をぜひご覧ください♪⇒

